

一つのプロンプト記述による対話フロー制御の有効性の評価

山上 勝義¹ 岡 隆之介¹

¹ 追手門学院大学 心理学部

{k-yamagami, r-oka}@otemon.ac.jp

概要

タスク指向型対話システムではタスク達成に加えて、ユーザ発話への柔軟な応答が求められる。近年、大規模言語モデル (LLM) の柔軟な応答生成能力で、ユーザ発話への柔軟な応答を実現しようとする取り組みがある。その中で、対話フローをプロンプトに自然言語で記述し、一つのプロンプトのみで対話制御を行う手法が提案されている。本研究では、この手法による対話フローの適応的な制御について、LLM-as-a-judge による定量的な評価を行った。タスク達成度、システム応答の適応性に関して高い定量評価値が得られ、一つのプロンプトによる対話フロー制御の有効性を確認した。

1 はじめに

タスク指向型対話システムでは、対話フロー制御をルールで記述する手法 [1] や、対話状態の遷移を確率モデル化する手法 [2] が主流であった。これらの手法では、想定外のユーザ発話に対して対話破綻を起さず、適応的に応答生成することが課題であった。一方で、LLM の高度な言語処理能力を利用し、ルールによる対話フロー制御と LLM による応答生成を組み合わせたハイブリッド型の手法が提案されている [3][4]。しかし、これらのハイブリッド型の手法では、対話フローがルールで規定されるため、対話フローを逸脱するユーザ発話への対応が依然として難しい。

この課題に対し、鈴木ら [5] は、一つのプロンプトで対話フロー制御を行う Dialog Flow Prompt (DFP) を提案した。DFP は、対話フロー制御と応答生成のための指示文を自然言語でプロンプト記述し、LLM に所望の対話動作を行わせるものである。旅行代理店での旅行プラン提案を想定した対話タスクにおいて、DFP により、柔軟な対話フロー制御ができることの報告があるが、DFP の有効性について、プロンプト記述の一部の特徴に関する定性的な議論にとど

まっている。

本研究では、DFP による対話フロー制御の有効性を定量的に評価する。定量評価の中で、プロンプトを構成する複数の指示要素が対話フロー制御に与える影響を、各指示要素の有無を切り替えるアブレーション分析により調べる。評価には、対話の自動評価手法として有効性が報告されている LLM-as-a-judge [6] を用いる。

2 評価方法

鈴木らの対話システムのタスクは、(1) ユーザから日常生活や旅行での興味や嗜好を聞き出し、(2) それらを踏まえて、京都市内の観光地 2 箇所を巡り、食事処も含めた旅行プランを提案することである。鈴木ら [5] は、そのタスクに沿った対話を遂行させるプロンプト指示文を「命令書」、「条件」、「タスク」、「観光地の条件」、「興味を聞く条件」、「返答の条件」、「あなたのプロフィール」の 7 つの指示要素に分けて DFP に記述している。

DFP の特徴の 1 つは、対話フロー制御の柔軟性である。鈴木ら [5] は、DFP の中で上述の (1) を行う対話の指示を記述しているが、ユーザが行きたい観光地を決めている場合に不要となる (1) の対話を、ユーザの発話内容に応じてスキップして柔軟に対話ができたとしている。本研究では、DFP による対話フロー制御の柔軟性を定量的に評価する。定量評価の中で DFP の各指示要素の影響を調べるためのアブレーション分析を行う。対話の定量評価については、LLM-as-a-judge を用いた。LLM に対話評価指示のプロンプトを与えて、システムの応答の評価を行わせる。なお、対話を実行する LLM は OpenAI の GPT-4 を使用し、対話の評価を実行する LLM は Google の gemini-2.5-flash-lite を使用した。

2.1 プロンプトの作成

本研究では鈴木ら [5] が提案したプロンプトの内容をベースに評価対象とするプロンプトを作成した

(付録: プロンプトを参照). 下記は, 鈴木ら [5] のプロンプトに対する変更点である.

- 京都市内の観光地の Wikipedia ページの URL を記述.
- 変数として記述されている部分 (`{CITY NAME}`) を具体値「京都市内」に置換.
- 同一の対象を指す文言の表現の統一.
- 箇条書きの項目の末尾の未改行箇所の改行.

鈴木ら [5] は観光地情報を取得する API を利用して対話システムを実装したが, その代替として, 本研究では 20 箇所の京都市内の観光地を選定し, それぞれの観光地の解説の Wikipedia ページの URL をプロンプトに記述した. 併せて, 観光地に関する情報については URL で指定した Web ページの記載を参照する旨の指示文を記述した.¹⁾

2.2 アブレーション分析の設定

表 1 に, 作成したプロンプトに含まれる指示要素 (8 つ) と, アブレーション分析の設定 (調べる対象とする各指示要素の組み合わせ) を示す. 指示要素のうち **観光地一覧** 以外は, 鈴木ら [5] のプロンプトに元から含まれていた指示要素である. (指示要素の具体的な記述文は 付録: プロンプト を参照)

ALL はすべての指示要素を含む設定, ALL 以外は **タスク** と **観光地一覧** を除く 6 つの指示要素を 1 つずつ抜いた設定とし, 都合 7 種類の設定でプロンプトを構成する. 指示要素のうち **タスク** は旅行の相談というタスク記述の根本部分の指示要素であるため, すべての設定に含めた. また **観光地一覧** も観光地情報を取得するために必要な指示要素であるため, すべての設定に含めた.

2.3 対話試行の対話内容の設定

表 1 の各設定のプロンプトで LLM に指示を与え, ユーザとの対話を行わせる. 各設定ごとに対話試行を 10 回行う. **観光地一覧** の 20 箇所から 2 箇所ずつ選択し, 各設定につきユーザが希望する行き先 (2 箇所) を 10 通りに変化させる.²⁾

対話試行時のユーザの発話のシナリオは表 2 に示

す. 希望する 2 箇所の観光地が変化する以外は全試行を通じて同一の発話内容とした.

2.4 LLM-as-a-judge による対話の評価

本研究では LLM-as-a-Judge を用いて対話試行の対話ログを下記の 3 つの観点で 5 件法 (評価値は 1 ~ 5) で評価した. 紙面の都合で評価用プロンプトの具体内容については省略する.

タスクの達成度 ユーザの希望に沿った旅行プランを提案したか? 旅行プランや食事に関してユーザの希望を満たしているか?³⁾

対話全体での応答の適応性 対話全体として, システムが想定する対話の流れに反したユーザの発話に対しても, ユーザ意図を汲み取って, 適応的に応答できているか?⁴⁾

対話ターン毎の応答の適応性 各対話ターンにおいて, システムの応答に対するユーザの発話が, 想定外であっても, その発話に対して適応的に応答できているか?⁵⁾

3 評価結果

表 3 に, アブレーション分析設定毎の対話の評価結果を示す. 対話ターン数は各対話試行でのユーザ発話に対するシステム応答の組を 1 ターンとカウントした. タスクの達成度に関してはすべての設定で評価値 (平均値) が 4.50 以上であった. 全ての対話試行において, ユーザが対話の中で希望した京都市内の観光地 2 箇所を含む旅行プランをシステムが提案していたため, LLM-as-a-judge で得られた高い評価値は概ね妥当であった. 対話全体としての適応性の評価値 (平均値) もすべての設定で 3.80 以上と比較的高く, 対話ターン毎の適応性の評価値 (平均値) もすべての設定で 4.53 以上と高い評価値となった. タスクの達成度, 対話全体の適応性, 対話ターン毎の適応性の 3 つの評価値について, アブレーション分析設定間で顕著な差はなかった.

評価値の妥当性を確かめるため, 対話試行の対話ターン毎にシステム応答が適応的であるかを目視分析した. LLM-as-a-judge の評価では, ユーザ発話の直前のシステム発話 (system), それに対するユーザ

1) 使用する LLM がプロンプトに記述した URL の Web ページ情報を参照して応答生成可能なことを事前確認した.

2) 希望の行き先は, 次の 10 ペアである. (銀閣寺, 南禅寺), (清水寺, 二条城), (伏見稲荷大社, 金閣寺), (嵐山, 八坂神社), (京都御所, 平安神宮), (哲学の道, 鞍馬寺), (三十三間堂, 貴船神社), (円山公園, 四条大橋), (京都駅ビル, 河原町通), (岡崎公園, 建仁寺)

3) 評価値 1: まったく達成されていない ~ 評価値 5: 完全に達成されている

4) 評価値 1: まったく適応的でない ~ 評価値 5: 完全に適応的である

5) 評価値 1: まったく適応的でない ~ 評価値 5: 完全に適応的である

表1 プロンプトの指示要素とアブレーション分析の設定

アブレーション分析の設定	プロンプト中の指示要素							
	命令書	条件	タスク	観光地の条件	観光地一覧	趣味を聞く条件	返答の条件	あなたのプロフィール
ALL	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
命令書 (-)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
条件 (-)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
観光地の条件 (-)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
趣味を聞く条件 (-)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
返答の条件 (-)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
あなたのプロフィール (-)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

表2 ユーザの発話シナリオ

発話内容	発話文	
1	1つ目の希望の観光地を言う	〇〇に興味があります。
2	2つ目の希望の観光地を言う	〇〇にも行ってみたいです。
3	2箇所を巡る旅行プランを考 えるよう要求する	この2箇所旅行プランを考えて ほしいです。
4	システムが旅行プランを提示 しない場合、再度要求する	〇〇と〇〇に行く旅行プランをお 願ひします。
5	システムが旅行プランを提示 したら、承諾する	それをお願いします。
6	食事処は提案は不要と言う	食事については、現地で適当に探 すので今は決めないでおきます。
7	最終的な旅行プランの説明を 要求する	最終的に旅行プランはどうなりま すか？
8	了解する	わかりました。

発話 (user), そのユーザ発話に対するシステム応答 (system) の3つ組を与え、2つ目のシステム応答が適応的であるかを評価させている。その評価値が妥当かを目視判断した。表4に、アブレーション分析設定毎の対話ターン中の適応的なシステム応答の割合を示す。すべての設定で、適応的なシステム応答の割合が88.0%以上となっており、LLM-as-a-judgeの評価値は妥当であると言える。

上記の目視分析で、適応的でないと判断されたシステム応答は59件あったが、そのほとんど(58件)は、表2の1,2のユーザ発話を経て、具体的な旅行プラン提案を希望する3のユーザ発話「この2箇所旅行プランを考えてほしいです」に対するシステム応答時のものであった。適応的でないシステム応答は、ユーザの意図を汲み取らず、ユーザが京都観光においてどのような体験を希望するかを深掘りする質問を継続するものだった。旅行プラン希望のユーザ発話に絞って、システムの応答の適応性を目視分析した結果を表5に示す。

適応的な応答の割合が、ALL設定時(10.0%)に比べ、観光地の条件(-)設定時(40.0%)の方が高くなる傾向が見られた。ALL設定で、適応的でない応答であった例を示す。(下線部は応答が適応的ではないと判断した根拠となる箇所を示す)

ALL 設定時の適応的でない応答の例
system 南禅寺にも興味があるんですね。南禅寺は、その美しい庭園や水路閣からの絶景で知らせていますよね。南禅寺に行きたいと思ったきっかけは何ですか？また、南禅寺で何を一番楽しみにしていますか？
user この2箇所旅行プランを考えてほしいです。

system お客様のお話を聞いて、とてもうれしく思います。それでは、本題に入りましょう。お客様が京都でどのような体験をし、どんな思い出を作りたいのか、それが鍵になります。例えば、伝統的な日本庭園を散策する体験や、歴史的な建築物を見学する体験などが考えられますね。また、お客様が銀閣寺や南禅寺に興味をお持ちなので、禅の精神を感じる静かな時間を過ごす体験もお勧めです。どのような体験をお求めですか？

下線部のように、具体的な旅行プランの提示へは進まず、さらにユーザの興味や体験を深掘りする応答をしている。他の適応的でない応答もこの例と同様であった。次に、観光地の条件(-)設定で、適応的な応答であった例(1),(2)を示す。(下線部は応答が適応的であると判断した根拠となる箇所を示す)

観光地の条件(-)設定時の適応的な応答の例(1)

system 平安神宮にも興味があるんですね。
<途中省略>
また、お客様の興味からすると、歴史的な建造物の見学や、自然を満喫する散策などがおすすめです。どのような体験をお求めですか？

user この2箇所旅行プランを考えてほしいです。

system 承知しました。京都御所と平安神宮を訪れる旅行プランを考えさせていただきますね。これまでのお話をもとに、お客様にぴったりのプランを紹介させていただきます。

上記(1)の例は、具体的な旅行プランは提示しないものの、ユーザ発話の意図を汲んで旅行プランを提示する意思を示した適応的な応答である。

観光地の条件(-)設定時の適応的な応答の例(2)

system 鞍馬寺にも興味があるんですね！鞍馬寺は自然豊かな場所で、パワースポットとしても知られていますよね。
<途中省略>
また、お客様の趣味を生かすとすれば、哲学の道での散策や、鞍馬寺でのパワースポット巡りなどが考えられます。どのような体験をお求めですか？

user この2箇所旅行プランを考えてほしいです。

system それでは、お客様のご要望に基づいて、哲学の道と鞍馬寺を巡る旅行プランを考えてみましょう。私の提案がお客様の旅行をより楽しいものにするのを願っています。それでは、私からの提案として「自然満喫！哲学の道と鞍馬寺巡りプラン」をおすすめします。まずは哲学の道を散策し、四季折々の風景を楽しんでいただきます。その後、鞍馬寺へ向かい、自然に囲まれたパワースポットで心身ともにリフレッシュしていただく、というプランです。変更などもできますが、このプランで訪れる観光地はこちらの2つでいかがでしょうか？

上記(2)の例は、具体的な旅行プランを提示しており、同じくユーザ発話の意図を汲んだ適応的な応答である。

他の適応的な応答も上記の(1),(2)の例と同様であった。

表3 アブレーション分析設定毎の対話の評価値

	対話ターン数		タスクの達成度		対話全体の適応性		対話ターン毎の適応性	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
ALL	8.30	0.48	4.70	0.48	4.10	0.32	4.49	0.17
命令書 (-)	8.10	0.32	4.80	0.42	4.00	0.00	4.63	0.12
条件 (-)	8.10	0.57	4.50	0.53	3.80	0.42	4.63	0.20
観光地の条件 (-)	8.00	0.67	4.70	0.48	3.80	0.42	4.53	0.21
趣味を聞く条件 (-)	8.10	0.74	4.70	0.48	4.00	0.00	4.59	0.11
返答の条件 (-)	8.00	0.47	5.00	0.00	4.20	0.42	4.67	0.17
あなたのプロフィール (-)	8.30	0.48	4.70	0.48	3.90	0.32	4.60	0.18

表4 対話ターン中の適応的なシステム応答の割合

	適応的な応答の割合
ALL	89.2% (74/83)
命令書 (-)	88.9% (72/81)
条件 (-)	90.1% (73/81)
観光地の条件 (-)	92.5% (74/80)
趣味を聞く条件 (-)	90.1% (73/81)
返答の条件 (-)	88.8% (71/80)
あなたのプロフィール (-)	88.0% (73/83)

表5 旅行プラン希望のユーザ発話に対する適応的なシステム応答の割合

	適応的な応答の割合
ALL	10.0% (1/10)
命令書 (-)	10.0% (1/10)
条件 (-)	20.0% (2/10)
観光地の条件 (-)	40.0% (4/10)
趣味を聞く条件 (-)	20.0% (2/10)
返答の条件 (-)	10.0% (1/10)
あなたのプロフィール (-)	10.0% (1/10)

4 考察

4.1 一つのプロンプトによる対話フロー制御の有効性について

タスクの達成度(表3)は、ALL設定での評価値が平均4.70と高い評価となり、対話ログの目視分析からその評価値の妥当性を確認した。また、ALL設定での対話全体でのシステム応答の適応性の評価値については、平均4.10と比較的高い値となった。同じくALL設定での対話ターン毎のシステム応答の適応性の評価値については、平均4.49とより高い値となった。対話ログの目視分析から得た、対話ターン中の適応的なシステム応答の割合(表4)は、ALL設定の時89.2%であった。これらの結果から、一つのプロンプト記述による対話フロー制御が有効に機能しており、鈴木ら[5]のDFPの対話制御の有効性が確認できた。一方で、アブレーション分析設定間での評価値に顕著な差が出なかったため、どの指示要素が対話フロー制御に効力をもつかについては明らかにできなかった。

対話ターン中のシステム応答の適応性(表4)は、

ALL設定よりも観光地の条件(-)設定の方が適応的である割合が高くなった。ALL設定で適応的でない応答のほとんどは、旅行プラン要望のユーザ発話に対する応答であった。そこで、旅行プラン要望のユーザ発話を含む対話ターンに絞って目視分析を行った。その結果(表5)、ALL設定よりも観光地の条件(-)設定の方が、ユーザの旅行プラン希望の意図に沿った応答をする傾向が見られた。「観光地の条件」の指示要素の記述には「お客様の趣味や求める体験を反映した旅行プランにしてください。」という指示文が含まれており、この指示文の有無により、上記のALL、観光地の条件(-)での応答の傾向に違いが出た可能性がある。

4.2 LLM-as-a-judgeによる定量評価について

タスクの達成度については、上述の通り妥当な評価値を与えていた。対話全体に対するシステム応答の適応性についても、対話全体としては適応的なシステム応答の割合が高く、妥当な評価値を与えていた。対話ターン毎でのシステム応答の適応性についても、ほとんどの対話ターンでシステム応答の適応性について、妥当な評価値を与えていた。本研究で評価した観点において、LLM-as-a-judgeの評価は有効であった。

5 おわりに

本研究では一つのプロンプト記述(DFP)による対話フロー制御の有効性をLLM-as-a-judgeにより定量評価した。

システム応答の適応性が高い評価値となり、対話フロー制御においてDFPが有効であった。全ての指示要素を含むプロンプトに比べ、観光地の条件を除いたプロンプトの方が、適応的なシステム応答が少なくなり、除いた指示要素に含まれる特定の指示文が、適応的な応答を抑制している可能性を確認した。対話ログの目視分析により、LLM-as-a-judgeが与えた評価値は、概ね妥当であることを確認した。

参考文献

- [1] Staffan Larsson and David R. Traum. Information state and dialogue management in the trindi dialogue move engine toolkit. **Natural Language Engineering**, Vol. 6, No. 3–4, pp. 323–340, 2000.
- [2] Steve Young, Milica Gašić, Simon Keizer, François Mairesse, Jost Schatzmann, Blaise Thomson, and Kai Yu. The hidden information state model: A practical framework for pomdp-based spoken dialogue management. **Computer Speech and Language**, Vol. 24, No. 2, pp. 150–174, 2010.
- [3] Ryo Yanagimoto, Yunosuke Kubo, Miki Oshio, Mikio Nakano, Kenta Yamamoto, and Kazunori Komatani. User-adaptive tourist information dialogue system with yes/no classifier and sentiment estimator. In **In proceedings of the Dialog Robot Competition 2023**, 2023.
- [4] Hyejin Hong, Hibiki Kawano, Takuto Maekawa, Naoki Yoshimaru, Takamasa Iio, and Kenji Hatano. A summarized history-based dialogue system for amnesia-free prompt updates. In **In proceedings of the Dialog Robot Competition 2023**.
- [5] 鈴木順大, 石垣龍馬, 宿里晃太郎, 藤本拓真, 川窪大介, 酒造正樹, 前田英作. ただ一つのプロンプトによるタスク指向型対話システムの実現. 言語処理学会 第 30 回年次大会 発表論文集, pp. 2720–2725, 2024.
- [6] Lianmin Zheng, Wei-Lin Chiang, Ying Sheng, Siyuan Zhuang, Zhanghao Wu, Yonghao Zhuang, Zi Lin, Zhuohan Li, Dacheng Li, Eric P. Xing, Hao Zhang, Joseph E. Gonzalez, and Ion Stoica. Judging LLM-as-a-judge with MT-Bench and Chatbot Arena. In **Proceedings of the 37th Conference on Neural Information Processing Systems (NeurIPS 2023), Track on Datasets and Benchmarks**. Neural Information Processing Systems Foundation, 2023. arXiv:2306.05685v4 [cs.CL].

付録: プロンプト

命書

あなたは旅行代理店のプロフェッショナル店員です。
日本語で話してください。
以下の条件に必ず従い、最高の出力をしてください。

条件

今回の対話の最終的な目標は、京都市内での 2 つの観光地をめぐる旅行プランを決めることです。
これから「あなたのプロフィール」と「タスク」を与えます。
お客さんと楽しくお話をしながら、京都市内での旅行プランを考えます。
残念ながら翔子は京都市内旅行に行くことができません。そのためお客様のために旅行プランを考えてください。
基本的に以下の「タスク」の流れに沿って 1 つずつ実行してください。ただし、お客様の要望次第ではタスクの順番を入れ替えたり、タスクをスキップしても構いません。
タスクは勝手に進めずに、お客様の発話を待ってください。
お客様が質問にははっきり答えるまで先に進まないでください。お客様が答えられないようだったら、共感した上で先に進んでください。

タスク

- まずは、お客様のことを知りたいと言い、お客様の趣味や最近やっているのを聞いてください。お客様に興味を持っているため、旅行プランの事は一旦おいて趣味を聞きたいと思っています。興味津々に話を聞いてください。2 回だけ、その話題について深堀をして会話を盛り上げてください。
- お客様の趣味を聞いてうれしかった事を伝えたら「それでは本題に入りましょう」と言ってください。
- 「お客様が京都でどのような体験をし、どんな思い出を作りたいのか、それが鍵になります」と言った後、京都市内の旅行でどのような体験をしたいのか聞いてください。一般的な京都観光でできる体験の具体例を 2 個挙げ、お客様の趣味を京都観光で生かせる体験を 1 つ挙げてください。簡潔に伝えてください。
- これまでの話をもとに、これからオススメプランを紹介することを伝えてください。
- 旅行プランには 1 箇所目の観光地と 2 箇所目の観光地が含まれます。旅行プラン名には、カタカナと漢字を組み合わせて魅力的で分かりやすい名前を付けてください。お客様の求めるものを反映できる聞き取りやすくて奇抜なプラン名をつけてください。頭に残るような印象的なプラン名がいいです。少しタサいぐらいがちょうどいいです。ex) 1 つ目は「筋肉もりもり金色の都とロマンチックプラン」です。これは oo を体験できるプランです。プラン名を示した後に、そのプランで訪れる 2 つの観光地を紹介してください。観光地一覧に存在しない観光地をオススメするときは、追加でもう一箇所観光地を決めて、存在しないものはおまけで行くようにしてください。
- 紹介したプランでお客様の希望を満たしているか必ず確認してください。「変更などもできますが、このプランで訪れる観光地はこちらの 2 つでいかがでしょうか?」と言ってください。プランを変更するときには、全体のプラン確認をせずに「oo の観光地を xx に変更します」のように簡潔に説明してください。プラン全体の説明はしないでください。
- 「それでは、お客様、旅行において、食事処選びも醍醐味ですよ」と言った後に、京都市内で食べてみたい料理や好きな食べ物を聞いてください。自分の意見を織り交ぜながら、お客様の希望を聞いてください。
- これまでの話を参考にして、ランチ場所や店、もしくは商店街を提案してください。ただし、食事処を紹介するだけにしてください。勝手に予約を取ったり、決めつけたりしないでください。
- 提案した食事処がお客様の希望を満たしているか確認してください。
- 決まった旅行プランの確認をしてください。簡潔に旅行プラン名と、訪れる観光地の名前を確認する。旅行プランの回り方を午前中、お昼、午後に分けて端的に伝えてください。観光地一覧に存在しない観光地をオススメするときは、追加でもう一箇所観光地を決めて、存在しないものはおまけで行くようにしてください。「とても素晴らしいプランだと思います。」という感じの締め言葉を書いてください。

観光地の条件

観光地一覧にある京都市内の観光地のみをオススメしてください。観光地一覧に存在しない観光地を含めてはいけません。
観光地に関する情報は、観光地一覧に挙げてある URL のページに書かれている情報を参照してください。
お客様の趣味や求める体験を反映した旅行プランにしてください。
1 箇所目の観光地: 京都市内での観光地、必ず「観光地一覧」から選ぶ
2 箇所目の観光地: 1 箇所目の観光地から近くにある京都市内の観光地、必ず「観光地一覧」から選ぶ
観光地一覧に存在しない観光地をオススメするときは、追加でもう一箇所観光地を決めて、存在しないものはオプションとして行く旅行プランにしてください。

観光地一覧

- 清水寺: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%85%E6%B0%B4%E5%AF%BA>
- 二条城: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%8C%E6%9D%A1%E5%9F%8E>
- 伏見稲荷大社: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%8F%E8%A6%8B%E7%A8%B2%E8%8D%B7%E5%A4%A7%E7%A4%BE>
- 金閣寺 (鹿苑寺): <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%B9%BF%E8%8B%91%E5%AF%BA>
- 嵐山 (渡月橋・竹林など): <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B5%90%E5%B1%B1>
- 八坂神社 (祇園): <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%AB%E5%9D%82%E7%A5%9E%E7%A4%BE>
- 京都御所: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BE%A1%E6%89%80>
- 銀閣寺 (慈照寺): <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%85%88%E7%85%A7%E5%AF%BA>
- 平安神宮: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E5%AE%89%E7%A5%9E%E5%AE%AE>
- 南禅寺: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E7%A6%85%E5%AF%BA>
- 哲学の道: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%93%B2%E5%AD%A6%E3%81%AE%E9%81%93>
- 鞍馬寺: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%8D%8C%E9%A6%AC%E5%AF%BA>
- 三十三間堂: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E5%8D%81%E4%B8%89%E9%96%93%E5%A0%82>
- 貴船神社: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B2%B4%E8%88%B9%E7%A5%9E%E7%A4%BE>
- 円山公園: https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%86%86%E5%B1%B1%E5%85%AC%E5%9C%92_%28%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BA%9C%29
- 四条大橋: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%9B%E6%9D%A1%E5%A4%A7%E6%A9%8B>
- 京都駅ビル: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E9%83%BD%E9%A7%85%E3%83%93%E3%83%AB>
- 河原町通: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B2%B3%E5%8E%9F%E7%94%BA%E9%80%9A>
- 岡崎公園 (平安神宮隣接): https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A1%E5%B4%8E%E5%85%AC%E5%9C%92_%28%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%B8%82%29
- 建仁寺: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BB%81%E5%AF%BA>

趣味を聞く条件

お客様に特に趣味が無ければ、お客様が最近興味のある事を聞くようにして、順番に一つ一つ段階を追って聞いてください。
ただ趣味を聞くのではなく 2 回ほど深堀りをして、お客様が楽しく話せるようにしてください。
もしお客様が何も答えてくれない場合は、その事に共感して、次のタスクに移ってください。

返答の条件

複数のタスクをまたがることから一つの発話で聞かないでください。一つ一つタスクを進めていってください。
一度に複数の事は聞かないでください。一度に複数のことを聞くとお客様が返答に困ります。
体言止めは使わないようにしてください。
話し言葉で話してください。人間らしいしゃべり方で話してください。
丁寧なしゃべり方で話してください。失礼な言葉を使わないでください。
お客様が質問に答えてから提案をしてください。
提案をする場合には「いかがでしょうか?」などの丁寧な言葉を使って相手に尋ねてください。
出力する文字列に改行や箇条書きは使わないでください。カッコも使わないでください。
タスクの記述に含まれる数字は出力しないでください。
話し相手のことは必ず「お客様」と呼んでください。勝手に名前をつけてはいけません。
基本的にお客様と 1 対 1 で話します。「私たち」や「皆さん」といった複数人を表す言葉を使わないでください。

あなたのプロフィール

あなたは旅行代理店の店員です。名前は翔子です。
お客さんと話すのが大好きで、少しお茶目な女性です。頼れるお姉さんです。
今回、お客様に最高の提案ができるように、お客様の事をできるだけ沢山聞こうと頑張っています。
あなたは、お客様に興味津々です。
あなたは、京都市の歴史に詳しいですが、割とフィーリングで物事を決める性格で、分かりやすい言葉を好みます。